

オン（御嶽）：神々の聖域

竹富島の神々はいたるところに存在しており、思いがけない場所や形で出会うこともあります。島を訪れる人は、島内 28 カ所あるオンまたはウタキと呼ばれる神聖な場所や、島民が大切にしている聖域に入らないよう特別に気を付けなくてはなりません。

沖縄には、白い砂が敷かれたメーと呼ばれる空き地と、イビと呼ばれる石が置かれた信仰の場所があることを知っておきましょう。

伝統的な信仰とオンは日常生活に深く関わっており、多くの人々は祈りの場所を自宅や庭に持っています。公に祀られているものは祭と結びついています。ここでは、神聖な儀式がカンツカサと呼ばれる女性の司祭を中心に行われ、伝統的に男性は入ることを許されていません。人々は、山、木、雨などの自然現象の神を大切にし、健康、繁栄、安全な航海、豊穰などについて祈ります。

竹富島では、神々にささげるうたや芸能をカンクウチ（神供物）として位置づけており、島で最大の祭で旧暦の九月から十月に執り行われるタナドゥイ（種子取祭）は、その文化的重要性を日本政府に認められており、数々のうたと芸能が奉納されています。

沖縄の信仰は、日本本土のアミニズムに似た古代の自然崇拜と説明されることもありますが、崇拜の方法、神々、儀式を行なう人々は異なります。もうひとつの大きな相違点は、建物が強く存在を主張している神道の神社や仏教の寺院に比べて、非常に控えめな空間の構造にあります。

竹富島のオンの多くは、参道の前にある鳥居で認識できます。しかし、これらは日本の神道教育が導入されて以降に建てられたものでありますが、結界の役割を果たしていますので、鳥居より先は神聖な場所とお考えください。

マイヌオン：創世の伝説

伝説によると、島造りの神シンミンガナシによって竹富島は造られ、山造りの神であるオモト神と協力して石垣島を造り、さらに八重山の島々を造ったとされています。

この二神が祀られている清明御嶽は、島の元御嶽として祀られており、雨乞いの儀式は清明御嶽で執り行います。また、旧暦八月初め頃に行われる一年間の願いを解く結願祭では、清明御嶽にて「始番」「芋堀狂言」をはじめとする芸能が奉納されます。

※ すべての御嶽は神聖な場所ですので、立ち入りはご遠慮ください

西塘御嶽：神になった英雄

竹富島の人々が敬愛する西塘は、一五〇〇年のオヤケアカハチとの戦いの際、琉球王府軍の総大将に見いだされ、王府に仕えました。西塘は、現在では世界文化遺産に登録されている園比屋武御嶽石門の建立（一五一九）、首里城の城壁修復や弁ヶ嶽石門の築造も手掛けたと言われており、石工として大成します。琉球王から深い信頼を寄せられた西塘は、一五二四年に八重山の統治者の役職にあたる竹富大首里大屋子の官位を授かり、生れ故郷の竹富島へ帰郷します。そして、西塘はカイジ浜に蔵元（役所）を置いて八重山を統治しました。

その後、西塘は蔵元を石垣島に移して没しますが、かつて西塘のお屋敷であった場所に西塘を慕う配下が墓を造り、お墓が御嶽となりました。西塘は島の守り神として祀られており、西塘御嶽は沖縄県の史跡に指定されています。

※ すべての御嶽は神聖な場所ですので、立ち入りはご遠慮ください

世持御嶽：一年で最大の祭り

ここは、竹富村誕生の一九一四年（大正三）から一九三八年（昭和一三）まで役場が置かれていた場所です。その地に、火の神と農耕の神を祀っているのが世持御嶽です。初秋の戌子の日を中心とした十日間の種子取祭は、国の重要無形文化財に指定されています。種子取祭は、五穀豊穰と島民の健康繁栄を祈願する島最大の祭で、七日目と八日目は神事、奉納芸能、世乞いの行事が夜を徹して行われます。殊に奉納芸能は行列や舞台の芸能を含め七十演目余りが幕間なくつづき、島全体が沸き立ちます。世持御嶽周辺は拝所が集中して聖域をなしているため、竹富島の昔からの森が残されています。種子取祭はこの場所から、島全体へ祭りの場を広げていきます。

東パイザーシ御嶽：竹富島のはじまりの場所

東パイザーシ御嶽は、竹富島のはじまりとなる場所で、この御嶽の神石に清明御嶽に祀られているシンミンガナシが降り立ち、竹富島を造ったと伝えられています。

竹富島には御嶽が二八か所あり、これらを中心として行われる祭は、島の人々の大切な生活の一部となっています。御嶽にはそれぞれ意味があり、東パイザーシ御嶽は、島を造り、島を育てる神がまつられています。

※ すべての御嶽は神聖な場所ですので、立ち入りはご遠慮ください

美崎御嶽：旅人を守る神

美崎御嶽は航海安全・海上平安の神として崇められています。島の人々は、美崎御嶽に祀られている神に旅の安全と無事の帰郷を祈願したり、海の恵みをいただいた御礼をします。

この先のミシャシ海岸は、かつては御用船の主要港として 1932 年まで使用されていました。今もガンギ（栈橋）あとがみられます。

※ すべての御嶽は神聖な場所なので、むやみに立ち入らないでください。

久間原御嶽 花城御嶽、波利若御嶽：六山の氏神

御嶽は島民の心の拠りどころとして大切にされており、久間原御嶽、花城御嶽、波利若御嶽は、氏神ならびに氏神が招いた神がまつられており、それぞれムーヤマ（六山）のひとつです。ほかの六山の御嶽は、玻座間御嶽、仲筋御嶽、幸本御嶽です。

久間原御嶽（クマーラオン）

ここで祀られている神は、沖縄島から渡来した久間原発金殿と伝えられ、木の神、山の神として崇められています。この御嶽では、「山入り願い」「山番はじり」という儀式が行われ、家を造った人々は人々が御礼参りをする聖地でした。

花城御嶽（ハナツクオン）

ここで祀られている神は、沖縄島から渡来した他金殿と伝えられ、海の神として崇められています。他金殿は、老練な知恵者として数々の伝承に彩られており、タキンドウンの古称から、竹富島の名前の由来とも伝えられています。

波利若御嶽（バイヤオン）

ここで祀られている神は、徳之島から渡来した塩川殿と伝えられ、雨の神として崇められています。塩川殿は、年若く欲のない神として伝えられています。

御嶽は聖域です。むやみに立ち入らないでください。

※ムーヤマ（六山）・・・坡座間御嶽、仲筋御嶽、幸本御嶽、久間原御嶽、花城御嶽、波利若御嶽